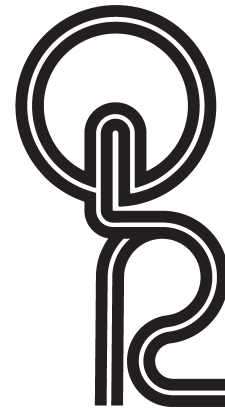


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 16 No.4, 2009



サロベツ湿原と利尻山

サロベツ湿原は東西約7 km、南北約28 kmに及び、北海道を代表する臨海湿原。完新世の泥炭が発達し、写真手前の複数の黒い長方形部分には、泥炭の採掘場跡が残る。その北西約20 kmの日本海上には、第四紀火山として知られる利尻山(1,721m)が位置する。(2005年7月 越後智雄撮影)

Vol. 16 No. 4

August 1, 2009

総会のお知らせと委任状 2	地球惑星科学連合からのお知らせと 日本第四紀学会からのお願い . . . 13
2009年大会案内(第4報) 2	訃報 14
評議員会議事録 10	2009年度学会賞・学術賞、論文賞・ 奨励賞の決定のお知らせ . . . 15
幹事会議事録 11	尾瀬賞募集 16
会員消息・猿橋賞募集 12	

◆日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月29日(土)、滋賀県立琵琶湖博物館にて2009年度総会が開催されます。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

やむを得ず欠席される場合は、委任状(とじ込みのはがきまたはファックス)を必ずご提出下さい。

委任状をはがき・ファックスで送付される場合は、8月24日(月)必着でお願いします。

FAX: 03-5291-2176 日本第四紀学会事務局 へ

総 会 委 任 状

2009年 月 日

日本第四紀学会 2009年度総会議長殿

私は議長(または 氏)を代理人と定め、日本第四紀学会
2009年度総会におけるいっさいの議決権を委任します。

氏 名 () (署 名)

所 属 ()

◆日本第四紀学会 2009年大会のお知らせ(第4報)

日本第四紀学会 2009年大会は以下の予定で開催されますので、皆さん多数のご参加をお願いいたします。

1. 日程概要・会場

会場: 滋賀県立琵琶湖博物館(滋賀県草津市下物町1091) <http://www.lbm.go.jp/>

日程:

8月28日(金) 一般研究発表

9:00-10:10 一般研究発表(オーラルセッション O-1~O-5)

10:10-10:20 休憩

10:20-11:30 一般研究発表(オーラルセッション O-6~O-10)

11:30-12:30 一般研究発表(ポスターセッション ショートサマリー P-1~P-31)

12:30-13:20 昼食・休憩

13:20-14:00 ポスターセッションコアタイム

14:00-15:24 一般研究発表(オーラルセッション O-11~O-16)

15:24-15:40 休憩

15:40-17:04 一般研究発表(オーラルセッション O-17~O-22)

- 17:20-20:00 評議員会：琵琶湖博物館 会議室
 ポスターセッション会場は琵琶湖博物館セミナー室 展示時間 9:00-17:00
- 8月29日(土) 一般研究発表・総会
 9:00-10:24 一般研究発表(オーラルセッション O-23～O-28)
 10:24-10:30 休憩
 10:30-12:00 総会
 12:00-13:00 昼食・休憩
 13:00-13:40 ポスターセッション コアタイム
 13:40-14:50 一般研究発表(オーラルセッション O-29～O-33)
 14:50-15:00 休憩
 15:00-15:56 一般研究発表(オーラルセッション O-34～O-37)
 15:56-16:10 休憩
 16:10-16:52 一般研究発表(オーラルセッション O-38～O-40)
 18:30-20:30 懇親会：琵琶湖ホテル
 ポスターセッション会場は琵琶湖博物館セミナー室
 展示時間 9:00-17:00 (17:00までに撤収)
- 8月30日(日) シンポジウム「古環境変動へ貢献する湖沼堆積物研究の役割」
 : 琵琶湖博物館ホール 9:00-12:30 S-0～S-8
- 8月30日 普及講演会「琵琶湖堆積物がつむぐ過去から未来へのメッセージ」
 : 琵琶湖博物館ホール 14:00-16:40
- 8月31日(月) 巡検「琵琶湖西岸地域の地形・地質、そしてその影響」
 : 申込締切は7月10日
- 上記以外に開催される委員会
 8月28日 12:30-13:20 幹事会：琵琶湖博物館 会議室

2. 会場案内

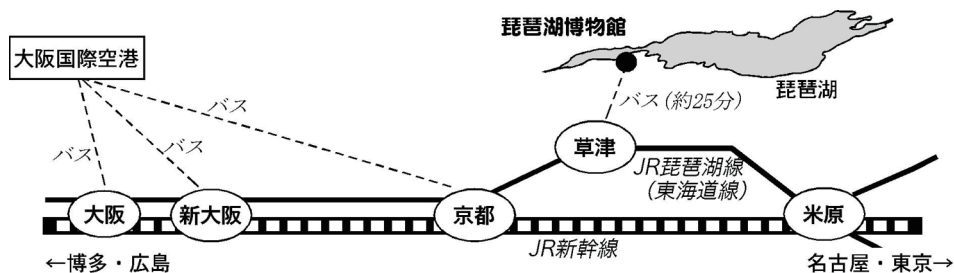
JR 琵琶湖線「草津」駅下車。

→「草津」駅西口から、近江鉄道バス・烏丸下物線「烏丸(からすま)半島行き」乗車、

→「琵琶湖博物館」下車(ほぼ終点です。バス所要時間約25分)。

自動車で来られる方は、琵琶湖博物館がある烏丸半島の一般駐車場に駐車してください。

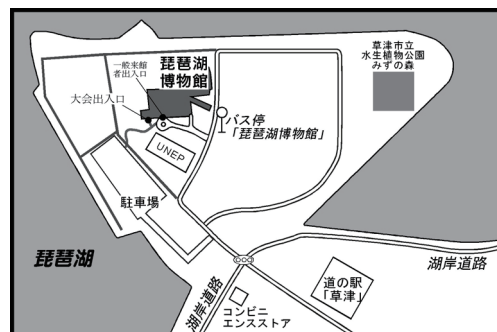
日本第四紀学会 2009年大会(滋賀県立琵琶湖博物館)への交通案内



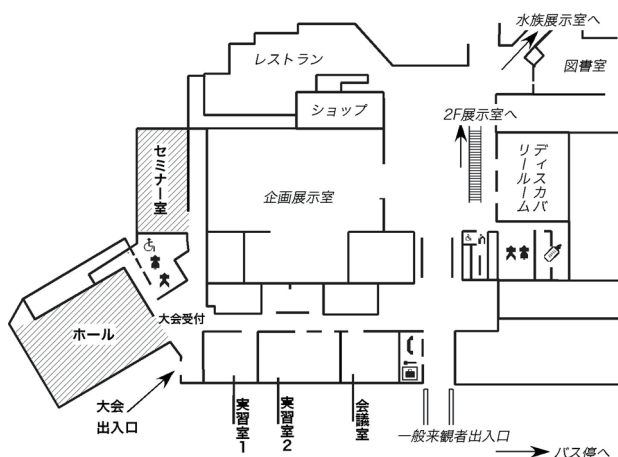
日本第四紀学会 2009年大会(滋賀県立琵琶湖博物館)の会場案内

○琵琶湖博物館周辺地図

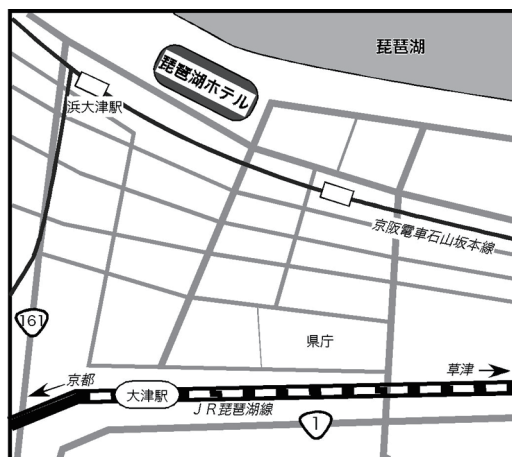
JR「草津」駅西口からでている近江鉄道バス「烏丸半島」行きに乗ると、「琵琶湖博物館」のバス停をおりてすぐです。琵琶湖博物館の開館時間前から学会大会が始まる予定ですので、出入りは大会専用の出入口からお願いします。琵琶湖博物館の周りには、お店などほぼありません。



○琵琶湖博物館館内地図



○懇親会会場地図



3. 巡検

巡検「琵琶湖西岸地域の地形・地質、そしてその影響」

日程：2009年8月31日（月）日帰り

案内者：山川千代美、里口保文、小松原 琢、高橋啓一、宮本真二

琵琶湖の西側に形成された中部更新統の古琵琶湖層群を中心に、佐川～栗原火山灰を挟む堅田層や、従来は古琵琶湖層群最上部と考えられていた湖西北部の堅田累層相当層（高島層）を見学し、堅田湖形成期の堆積環境を考えます。また、堅田断層で形成された地形や歴史時代の地震による崩壊地形など自然災害が及ぼした人間活動への影響もあわせて、湖西地域における第四紀の活動記録を包括的に観察します。

内容概要とスケジュール：

8月31日（月）8：30 JR琵琶湖線草津駅西口 ポストンホテル前集合

バスにて琵琶湖大橋経由 湖西地域へ

- ・本堅田 (堅田断層で形成された地形の見学)
- ・堅田～伊香立丘陵 (佐川～栗原火山灰を挟む地層、伊香立公園の露頭観察)
- ・葛川町居 (歴史時代の地震による崩壊地形の見学)
- ・朽木・高島市長尾 (高島層・安曇川河床部の堅田層相当層の地層観察)

17：00 JR湖西線堅田駅解散

天候および交通事情等により若干の変更もあります。

問い合わせ先：

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 琵琶湖博物館

第四紀学会巡検係 山川千代美 あて

e-mail:yonki09(at)lbm.go.jp (yonki の後はゼロ。lbm: Lake Biwa Museum の略)

4. 口頭発表要領

会場には Windows パソコン 1 台に接続した液晶プロジェクターを用意します。Windows では、Microsoft Office PowerPoint 2003（及びそれ以下のバージョン）を用いた発表が可能です。Macintosh 使用の方は、あらかじめ Windows パソコンで動作確認をお願いします。また、PowerPoint 2007 などの上位バージョンを使用している方は、2003 バージョンへ落としてファイル保存をしてください。

講演でパソコンを使用される場合には、備え付けのパソコンを利用ください。パソコンは、午前と午後の各 1 台を使用しますので、データファイルを講演される時間帯に使用するパソコンへコピーしてください。ファイルは USB メモリーか CD に入れて用意ください。午前の時間帯の方は前日の午後受け付け付近へ、午後の時間帯の方は午前中に受付付近へ、発表用パソコン対応の担当者まで持ってきてください。間に合わなかった方は、講演前の休憩時間に演台まで持ってきてください。初日の午前中の方は、開始前に持ってきてください。別のソフト、またはご自分のパソコンの使用を希望される場合には、ご自分のパソコンを持参して、接続してください。また、OHP を用いた発表も可能です。

5. ポスターセッションの発表要領

- ポスターは大会期間中 8月28日 9:00～8月29日 17:00まで掲示できます。会場は琵琶湖博物館セミナー室です。
- ポスターセッションコアタイム：8月28日 13:20-14:00 および 8月29日 13:00-13:40を説明時間帯に設定しています。
- ポスターセッションのショートサマリー発表を8月28日 11:30-12:30に1件当たり2分間以内で行います。ここではOHPのみ使用することができます。
- ポスターのボード面積は1題あたり、縦180cm、横120cmです。ポスターをとめる画鋏やテープなどは会場で用意します。
- ポスターには、発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記してください。発表番号は、第四紀通信のプログラムを参照してください。
- ポスター会場でコンピューターなどの使用や、画鋏等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は、電子メールにて大会実行委員会事務局の里口 (yonki09(at)lbm.go.jp) まで連絡してください。

6. 参加費・懇親会申し込み等

- 大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。当日会場の受付にてお支払いください。ただし、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。
- 講演要旨集は、会場で直接販売いたします（予定価格2,000円）。大会終了後通信販売もいたしますので、購入希望の方は下記へお申込ください。
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階 日本第四紀学会事務局
E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com Tel: 03-5291-6231、 Fax: 03-5291-2176
- 懇親会に参加される方は、人数を把握するために、予約の申し込みをお願いします。
参加費：一般 5,000円（予約）、（当日は6,000円）、学生 2,500円
予 約：7月10日（金）までに、電子メールまたはFaxで大会実行委員会事務局（里口）までご連絡ください。
E-mail: yonki09(at)lbm.go.jp (yonkiのあとはゼロです。lbmは小文字のエル・ビー・エム)
Fax: 077-568-4850（里口保文宛と明記してください）

7. 大会実行委員会および連絡先

実行委員会委員長 高橋啓一
連絡先：実行委員会事務局長 里口保文
〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 琵琶湖博物館
E-mail: yonki09(at)lbm.go.jp (yonkiの後はゼロ。lbmはエルビーエム。)
Tel: 077-568-4828 Fax: 077-568-4850

8. プログラム

オーラルセッション：琵琶湖博物館 ホール

2009年8月28日（金）

No.	講演時間	題 名	氏 名 (所属)
0-1	9:00-9:14	断層撓曲の発生条件とメカニズム—数値計算を用いて—	安藤広一 (首都大)
0-2	9:14-9:28	干渉SARで捉えた活褶曲の成長についての地形学的考察	小荒井 衛 (国土地理院)・宇根 寛 (国土交通大)
0-3	9:28-9:42	長岡平野西縁断層帯北部の角田山東縁断層に関する考察	石橋克彦・原田智也 (東京大)
0-4	9:42-9:56	三方低地の地下地質に基づく三方断層帯の活動性の解明	岡田篤正 (立命館大)・加藤茂弘 (兵庫県立人と自然の博)・石村大輔 (京都大)
0-5	9:56-10:10	被覆土壌の火山灰分析による近畿地方の段丘面の編年：琵琶湖西岸地域と関ヶ原周辺地域を例にして	

- 石村大輔（京都大）・垣内佑哉（日本能率協会総合研）
- 10:10-10:20 休憩
- 0-6 10:20-10:34 鈴鹿山脈南部の隆起..... 松葉千年
- 0-7 10:34-10:48 カツラの遺伝子型と日本列島の第四紀変動.....
新妻信明（静岡大）・國分 尚・安藤敏夫（千葉大）
- 0-8 10:48-11:02 変成岩ナップの冷却に伴う第四紀のヒマラヤ前縁山地の急激な上昇.....
酒井治孝（京都大）・檀原 徹・岩野英樹（京都フィッショントラック）
・瀧上 豊（関東学園大）・藤井理恵（京都大）
- 0-9 11:02-11:16 東南海沖の前弧海盆表層堆積物より見いだされた近代の災害の痕跡.....
白井正明（首都大）・大村亜希子・若林 徹・大上隆史（東京大）
- 0-10 11:16-11:30 大分県横尾貝塚から発見された鬼界アカホヤ噴火に伴う津波堆積物...
藤原 治（産総研）・町田 洋（都立大）・塩地潤一（大分市教育委員会）
- 11:30-12:30 ポスターセッション ショートサマリー
- 12:30-13:20 昼食・休憩
- 13:20-14:00 ポスターセッションコアタイム
- 0-11 14:00-14:14 足柄平野北部で発見された富士山 1707 年噴火に伴うラハール堆積物と
埋没水田土壌.....
中村翔太（足柄の歴史再発見クラブ）・宮地直道（日本大）・萬年一剛
（神奈川温地研）・大脇良夫（足柄の歴史再発見クラブ）・鈴木 茂（パ
レオ・ラボ）金丸龍夫・杉中佑輔・前田美紀（日本大）・瀬戸良雄（足
柄史談会）
- 0-12 14:14-14:28 宮崎平野に分布するテフラから推定される霧島火山の爆発的噴火史.....
長岡信治（長崎大）・新井房夫・檀原 徹（京都フィッショントラック）
- 0-13 14:28-14:42 広域テフラ Kb-Ks の層位の再検討.....
中里裕臣（農研機構）・水野清秀・中澤 努（産総研）
- 0-14 14:42-14:56 川崎微小地震観測井コアのテフラ層序とその対比.....
田村糸子・山崎晴雄（首都大）
- 0-15 14:56-15:10 東京国際（羽田）空港 D 滑走路地域における古環境変遷と地盤工学的性
質の関係について.....
大里重人（土質リサーチ）・野口孝俊（関東地整）・秋山瑛子（日本大）
・千葉 崇（東京大）・鈴木 茂（パレオ・ラボ）・遠藤邦彦（日本大）
・金澤直人・細矢卓志（中央開発）・田中政典（港空研）
- 0-16 15:10-15:24 多摩丘陵町田付近における地下テフラとそれからみた上総層群の地質構造
鈴木毅彦（首都大）・小原未生（富士通エフ・アイ・ピー）
- 15:24-15:40 休憩
- 0-17 15:40-15:54 火山ガラスの化学組成によるテフラ層の給源火山・地域の識別—大阪層
群と琵琶湖高島沖コア試料の例—.....
長橋良隆（福島大）・小林聡子・吉川清志（産総研）・奥平敬元・吉川
周作（大阪市大）・吉田武義（東北大）
- 0-18 15:54-16:08 石英中の不純物中心の ESR 信号を用いた風送塵起源地の分別.....
山本裕哉・豊田 新（岡山理科大）・磯崎裕子（東京大）・Y.Sun (Chi-
nese Academy of sciences) 多田隆治（東京大）・長島佳菜（海洋研究
開発機構）・谷 篤史（大阪大）
- 0-19 16:08-16:22 大阪湾堆積物の花粉、珪藻および硫黄分析に基づく海洋酸素同位体ステ
ージ 21 の気候変化と海水準変動.....
北場育子・原田麻央・兵頭政幸（神戸大）・加藤茂弘（人と自然博）
・佐藤裕司（兵庫県立大）・松下まり子（奈良文化財研）
- 0-20 16:22-16:36 山陰地方西部地域での完新世におけるスギ林の分布拡大について.....
渡辺正巳（文化財調査コンサルタント）
- 0-21 16:36-16:50 茨城県行方台地における中部更新統、上岩橋層下部の古植生.....
楡井 尊（埼玉県立自然の博）・稲田 晃・西村祥子・島村健二・志
水里美・金子陽子・金子静子・斉藤ひさ・小林健助・本郷美佐緒
- 0-22 16:50-17:04 北海道・十勝沖海底における花粉の堆積状況.....

五十嵐八枝子（北方圏古環境研究室）・山本正伸（北海道大）・野田篤・池原 研・片山 肇（産総研）
 17:20-20:00 評議員会（琵琶湖博物館 会議室）
 ポスター展示時間 9:00-17:00（9:00 から展示可能です）

2009年8月29日（土）

- 0-23 9:00-9:14 飛騨山脈・白馬岳東麓におけるモレーン状地形の成因—長走沢と金山沢の例—.....
 荻谷愛彦（専修大）・佐藤 剛（帝京平成大）・小森次郎（名古屋大）
- 0-24 9:14-9:28 サンゴから求められたターミネーションIIのタイミングと古気候学的解釈
 横山祐典（東京大）
- 0-25 9:28-9:42 古地磁気強度および¹⁰Beフラックス変動に基づくPaleomagnetic lock-in depthの決定：地磁気変動を用いたマルチアーカイブ対比の高精度化
 菅沼悠介（国立極地研）・横山祐典（東京大）・山崎俊嗣（産総研）
- 0-26 9:42-9:56 過去半世紀の温暖化を太陽変動と宇宙線変動で説明する試み.....
 木庭元晴（関西大）
- 0-27 9:56-10:10 第四紀の地位と新しい定義の確立.....
 奥村晃史（広島大）・佐藤時幸（秋田大）・熊井久雄（大阪市立大）・鈴木毅彦（首都大）・渡辺真人（産総研）
- 0-28 10:10-10:24 中国山地西部、高津川・錦川水系における河川争奪とその原因.....
 山内一彦（岩国総合高）・白石健一郎（徳山北高）
- 10:24-10:30 休憩
 10:30-12:00 総会
 12:00-13:00 昼食・休憩
 13:00-13:40 ポスターセッションコアタイム
- 0-29 13:40-13:54 琵琶湖における2007年音波探査とピストンコア解析による過去5万年の堆積環境.....
 竹村恵二・岩部智紗（京都大）・原口 強・奥元かおり・升本眞二（大阪市大）・林田 明（同志社大）・檀原 徹（京都フィッシュントラック）
- 0-30 13:54-14:08 琵琶湖湖底堆積物中のBe-10および主要元素分析による古環境の復元...
 高橋理美・横山祐典・山根雅子（東京大）・竹村恵二（京都大）・北川浩之（名古屋大）・松崎浩之（東京大）
- 0-31 14:08-14:22 琵琶湖北湖中央部の30万年間の相対的湖水準変動.....
 佐藤智之（産総研）・檀原 徹（京都フィッシュントラック）・原口強（大阪市大）・林田 明（同志社大）・竹村恵二（京都大）
- 0-32 14:22-14:36 琵琶湖堆積物中のGDGTを用いた過去5万年間の古温度変動復元.....
 味岡 拓・山本正伸・沖野龍文（北海道大）・竹村恵二（京都大）・林田 明（同志社大）
- 0-33 14:36-14:50 琵琶湖の過去100年にわたる植物プランクトン動態.....
 槻木玲美（愛媛大）・占部城太郎（東北大）・速水祐一（佐賀大）・加三千宣（愛媛大）・中西正巳（地球研）
- 14:50-15:00 休憩
- 0-34 15:00-15:14 琵琶湖と古カトマンズ湖のボーリングコアに記録されたモンスーン変動史の比較研究.....
 藤井理恵（京都大）・牧 武志（海洋研究開発機構）・萬福真美（九州大）・酒井治孝（京都大）
- 0-35 15:14-15:28 中期更新世に古カトマンズ湖の浮遊性珪藻はなぜ大繁茂したのか?.....
 林 辰弥・斎藤めぐみ・谷村好洋（国立科学博）
- 0-36 15:28-15:42 中央アジア、バルハシ湖における珪藻遺骸群集より復元された過去2000年間の湖水位変動.....
 千葉 崇（東京大）・遠藤邦彦（日本大）・須貝俊彦（東京大）・原口強（大阪市大）・中山裕則（日本大）・山崎秀夫（近畿大）・窪田順平（地球研）

- O-37 15:42-15:56 インドネシア・サンギランにおけるジャワ原人化石産出層の珪藻・硫黄分析.....
 山田真央・兵藤政幸・北場育子（神戸大）・佐藤裕司（兵庫県立大）・松浦秀治・近藤 恵（お茶の水女子大）・竹下欣宏（戸隠地質化石博）・F.Aziz・Sudijono（インドネシア GSI）・熊井久雄（大阪市大）
- 15:56-16:10 休憩
- O-38 16:10-16:24 最終氷期最寒期の日本海の表層環境.....
 大場忠道（北海道大）・谷村好洋（国立科学博）
- O-39 16:24-16:38 南シナ海コア古水温変動からみた過去3万年間の熱帯収束帯の変動.....
 山本正伸・新谷知也・齋 博貴（北海道大）・陳 明德（台湾海洋大）
- O-40 16:38-16:52 湖沼堆積物の有機炭素含有量を指標とした第四紀後期の気候変動の解析
 公文富士夫（信州大）・田原敬治（新宮高）・井内美郎（早稲田大）
- 18:30-20:30 懇親会（琵琶湖ホテル：〒520-0041 滋賀県大津市浜町 2-40 琵琶湖ホテル
 電話：077-524-7111 URL：http://www.biwakohotel.co.jp/）
 ポスター展示時間 9:00-17:00（17:00までに完全撤収）

ポスターセッション：琵琶湖博物館 セミナー室

- | No. | 題 名..... | 氏 名(所属) |
|------|--|--|
| P-1 | 地形発達のカスタリングと基本地形量の変化についてのGIS解析..... | 田中信行・卯田 強（新潟大） |
| P-2 | 福島県浜通り地域における河成段丘形成と地殻変動の関係..... | 林崎 涼（首都大） |
| P-3 | 沖積層コア（GS-KNM-1）の解析による角田・弥彦断層の活動間隔の推定..... | 中西利典・宮地良典・田辺 晋（産総研）安井 賢（甲賀地盤調査）・中島 礼（産総研）・若林 徹（東京大） |
| P-4 | 1703年元禄関東地震後の房総半島南部の海岸変化..... | 村岸 純・山崎晴雄（首都大） |
| P-5 | 濃尾平野の氾濫原堆積物と輪中形成..... | 堀 和明（名城大） |
| P-6 | 琵琶湖とその周辺域に分布する石英粒子のESR信号特性—後背地からの土砂供給動態の解明に向けた基礎研究—..... | 高田将志（奈良女子大）・島田愛子（日本電子）・豊田 新（岡山理科大）・竹村恵二（京都大学大学院）・相馬秀廣（奈良女子大） |
| P-7 | 三重県伊賀市喰代地域における古琵琶湖層群上野累層の層序の再検討..... | 森野祐助・三田村宗樹（大阪市大）・里口保文（滋賀県立琵琶湖博） |
| P-8 | 滋賀県の浅層地下地質..... | 小松原 琢（産総研）・関西地質調査業協会地盤情報データベース作成委員会 |
| P-9 | 関西国際空港で掘削されたボーリングコア（KIX18-1）の層序..... | 北田奈緒子（地域地盤環境研）・竹村恵二（京都大）・井上直人・伊藤浩子（地域地盤環境研）・増田富士雄・林田 明（同志社大）・江村 剛（関西国際空港）・福田幸司（関空用地造成） |
| P-10 | 関西国際空港で掘削されたボーリングコアの火山灰層序について..... | 伊藤浩子・北田奈緒子（地域地盤環境研）・竹村恵二（京都大）・檀原 徹（京都フィッシュントラック）・江村 剛（関西国際空港） |
| P-11 | 関西空港二期空港島で採取された深層掘削試料の磁気層序..... | 宮崎誠二・児玉明彦・林田 明（同志社大）・北田奈緒子・井上直人（地域地盤環境研）・竹村恵二（京都大）・江村 剛（関西空港） |
| P-12 | 関西国際空港2期空港島深層ボーリングコア（KIX18-1）の色変化のデジタル化..... | 井上直人・北田奈緒子（地盤研究財団）・楠本成寿（富山大）・佐柳敬造（東海大）・竹村恵二（京都大）・田端竹千穂（関西国際空港用地造成）・江村 剛（関西国際空港用地造成） |
| P-13 | 能登半島沖合の酸素同位体ステージ3の泥炭層の花粉群集組成..... | 池原 研・井上卓彦（産総研） |
| P-14 | 兵庫県豊岡盆地の堆積物コアを用いた完新世の詳細な古環境復元（予報）..... | 谷川晃一朗・兵頭政幸（神戸大）・佐藤裕司（兵庫県立大） |

- P-15 植物珪酸体および微粒炭分析からみた阿蘇外輪山北部における完新世の植生変遷と火事の歴史.....
河野樹一郎(産総研)・林 貴由・高原 光(京都府大)・河野耕三(綾町)・佐々木尚子・湯本貴和(総合地球環境学研)
- P-16 埋没腐植層の AMS¹⁴C 年代測定—十和田南部軽石と十和田中振軽石に挟在する埋没腐植層の事例—.....
井上 弦(九州大)・平舘俊太郎・森田沙綾香(農業環境技術研)・佐瀬 隆(北方ファイトリス研究室)・細野 衛(東京自然史研究機構)・松崎浩之(東京大)
- P-17 表層土壌中の球状炭化粒子を用いた過去の大気汚染激甚地域の推定—三重県四日市地域を例として—..... 磯嶋光一郎・石渡真己・北瀬晶子・香村一夫(早稲田大)
- P-18 硝酸性窒素による地下水汚染とその原因となる汚染履歴の解明—千葉県銚子地域を例として—.....
中川原宏昭・桑原良仁・北瀬(村上) 晶子・香村一夫(早稲田大)
- P-19 花脊峠付近における微粒炭分析(1)..... 小椋純一(京都精華大)
- P-20 愛媛県宇和盆地における過去 70 万年間のテフラ層序と盆地埋積過程.....
小島 圭・須貝俊彦・佐々木優太(東京大)・大野裕記・西坂直樹(四国電力)・池田倫治(四国総合研)・古澤 明(古澤地質)・柳田 誠(阪神コンサルタンツ)・市川清士(駒澤大)
- P-21 愛媛県宇和盆地埋積層分析による過去約 50 万年間の古環境復元—石城小 (IE) コア分析結果速報—.....
佐々木優太・須貝俊彦・小島 圭(東京大)・大野裕紀・西坂直樹(四国電力)・池田倫治(四国総合研)・柳田 誠(阪神コンサルタンツ)
- P-22 銚子地域屏風ヶ浦に分布する犬吠層群小浜層中の前期更新世テフラと白河火砕流堆積物群の対比に関する再検討..... 村田昌則・鈴木毅彦(首都大)
- P-23 榛名火山南麓を中心に分布する白川火砕流堆積物の斜長石斑晶組成に基づく分類.....
大石雅之(東京都市大)・下司信夫(産総研)
- P-24 日本海堆積物コアの中性子放射化分析による第四紀後期のアルカリ岩質テフラ層序の構築..... 豊田和弘(北海道大)・任忠完(オハイオ大)・池原 研(産総研)
- P-25 信号再生法によるテフラの石英の ESR 年代測定の高精度化の試み.....
豊田 新・浅越光矢(岡山理科大)・Hélène Tissoux・Christophe Falguères(フランス国立自然史博)・鈴木毅彦(首都大)
- P-26 土器片中の軽石の起源—市原市長平台遺跡及び指宿市橋牟礼川遺跡出土土器—.....
福岡孝昭(立正大)
- P-27 日本海沿岸、富山地域における石器石材環境の研究 1.. 中村由克(野尻湖ナウマンゾウ博)
- P-28 堆積構造の 3 次元解析手法としての電磁波反射法(地中レーダー)の可能性(予報)....
岡崎浩子(千葉県立中央博)・中里裕臣(農村工学研)
- P-29 第四紀海水準変動より推定される南極氷床変動史.... 奥野淳一・三浦英樹(国立極地研)
- P-30 インドネシア・西ジャワの石筍に見られる成長縞を用いた時間モデル構築.....
坂田周平・渡邊裕美子・松岡廣繁・山田 誠・大沢信二(京都大)・中井俊一(東京大)・Budi BRAHMANTYO・Khoriril A. MARYUNANI (ITB)・田上高広・竹村恵二・余田成男(京都大)
- P-31 Paleontological study of the latest Pleistocene molluscan assemblages from Bangkok lowland in Central Thailand..... 佐藤喜男(Chulalongkorn University)

シンポジウム「古環境変動へ貢献する湖沼堆積物研究の役割」：琵琶湖博物館ホール

2009年8月30日(日)

- S-0 9:00-9:05 趣旨説明
- S-1 9:05-9:30 環境変動解明への湖沼堆積物研究の役割..... 井内美郎(早稲田大)
- S-2 9:30-9:55 湖沼堆積物の百万年スケール層序と編年：琵琶湖を例にして.....
里口保文(琵琶湖博)
- S-3 9:55-10:05 【コメント】
琵琶湖 1400 m ボーリングコアの編年に関するコメント.....

- 檀原 徹 (京都フィッシュントラック)
- S-4 10:05-10:30 花粉による琵琶湖堆積物からの古気候復元の現状と課題.....
奥田昌明 (千葉県立中央博)・中川 毅 (ニューカッスル大)・竹村恵二 (京都大)
- S-5 10:30-10:40 【コメント】
湖底堆積物コア中の無機元素組成の垂直分布—琵琶湖湖底コアを主として
豊田和弘 (北海道大)
- 10:40-10:50 休憩
- S-6 10:50-11:15 湖沼堆積物における古環境指標としての珪藻化石—現状と課題—.....
斎藤めぐみ・林 辰弥 (国立科学博)
- S-7 11:15-11:40 湖沼堆積物中の燃焼痕跡物に記録された後水期の人間活動.....
井上 淳 (大阪市大)・北瀬 (村上) 晶子 (早稲田大)
- S-8 11:40-11:50 【コメント】
気候変動や人間活動による生態系の変化を復元するための時間・空間スケール..... 高原 光 (京都府大)
- 11:50-12:30 総合討論 (司会：竹村恵二・公文富士夫)

9. 普及講演会「琵琶湖堆積物がつむぐ過去から未来へのメッセージ」

この普及講演会は、一般市民を対象として、日本第四紀学会・滋賀県立琵琶湖博物館の共催で行います。また、内容は当日午前中に行うシンポジウムと関連づけて行うので、シンポジウムの講演とあわせてご参加ください。

日時：2009年8月30日(日) 14:00～16:40

会場：琵琶湖博物館 ホール

世話人：里口保文・高橋啓一・竹村恵二・高原 光・井内美郎

プログラム：

- 13:30-14:00 受付
- 14:00-14:10 開会挨拶
- 14:10-15:10 「過去100万年間の琵琶湖堆積物に残された汎地球規模変動の記録」.
竹村恵二 (京都大)
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-16:20 「琵琶湖と周辺湿地堆積物から読み解く植生と人間活動の移り変わり」
高原 光 (京都府大)
- 16:20-16:30 質問受付など
- 16:30-16:40 閉会挨拶

◆ 2008年度第3回評議員会議事録

日時：2009年6月27日(土) 11:30～12:50
場所：日本大学文理学部100周年記念国際会議場
会議室2

議長：池原 研

出席者：町田 洋 (会長)、熊井久雄 (前会長)、遠藤邦彦 (副会長・評議員)、吾妻 崇、池田明彦、池原 研、大場忠道、岡崎浩子、久保純子、公文富士夫、小池裕子、小泉武栄、鈴木毅彦、辻誠一郎、陶野郁雄、中村俊夫、松島義章、三浦英樹、水野清秀、山崎晴雄 (以上評議員18名、委任状22通)、奥村晃史 (学術会議)、苅谷愛彦 (幹事会)、中野利洋 (事務局)

鈴木行事幹事の司会で、町田会長挨拶に続き、池原 研評議員が議長に選出され、定足数確認の後、以下の審議が行われた。

I. 審議事項

1. 2009年度学会賞・学術賞受賞者の決定

まず、水野幹事長から以下の経過説明が行われた。規約にある3月31日までに学会賞・学術賞両賞候補とも推薦はなかった。そのため5月11日まで期間を延長して追加推薦を募集することとし評議員会メーリングリストにて大方の了解を得た。その結果推薦があり、学会賞受賞者選考委員会にて検討し、最終候補者の答申を得た。しかし、募集期間を延長することはまだ正式の評議員会で承認されていないので、事後ではあるが承認を求める必要がある。

審議の結果、追加募集による推薦は有効であることが承認された。引き続き、学会賞受賞者選考委員会の遠藤邦彦委員長より、選考に関する経過と最終候補者及び推薦理由の説明等が行われた。質疑応答の後、以下の会員が受賞者として決定された。

日本第四紀学会賞：小野 昭 会員、町田 洋 会員
日本第四紀学会学術賞：小疇 尚 会員、斎藤文紀 会員

2. 2009 年度論文賞・奨励賞受賞者・受賞論文の決定
論文賞受賞者選考委員会の辻 誠一郎委員長より、選考に関する経過と最終候補論文・候補者及び推薦理由等の説明が行われた。質疑応答の後、以下の受賞論文、受賞者が決定された。

日本第四紀学会論文賞

論説 佐瀬 隆・町田 洋・細野 衛：相模野台地、大磯丘陵、富士山東麓の立川-武蔵野ローム層に記録された植物珪酸体群集変動、第四紀研究、47 巻、1 号、1-14 頁

日本第四紀学会奨励賞：立石 良会員、張 穎奇会員

なお、論文賞・奨励賞候補者の選考は、会員からの推薦の有無にかかわらず選考委員会独自の判断でできること、選考委員会にはその旨を事前に伝えておくこと、参考人から意見を聞くことができること等を確認した。

II. その他

幹事会より、地球惑星科学連合の代議員選挙に伴い、第四紀学会会員から各セクションの代議員候補者を出すことを検討していること、連合会員への登録を呼びかけること等の紹介があった。

以上で審議を終え、議長解任の上閉会した。

◆日本第四紀学会 2008 年度第 7 回幹事会議事録

日時：2009 年 5 月 17 日（日）13:00～18:00

場所：東京大学法文 1 号館 310 教室

出席者：町田 洋（会長）、遠藤邦彦（副会長）、水野清秀、鈴木毅彦、公文富士夫、百原 新、三浦英樹、吾妻 崇、奥村晃史、中野利洋（事務局）、佐藤宏之（記録）

（報告および議事）

1. 庶務（百原）

1) 会員動向：入会 7 名、退会 18 名、所属・住所変更 29 名 2) パンフレット等学会への連絡物の回覧 3) 一般からの学会に対する問い合わせあり。百原幹事の対応とする。4) 後援依頼・転載許可関係はこれまで通り逐次対応することとする。5) 評議員選挙：投票締め切り日に複数の記述あることが判明。5 月 21 日締め切りで統一し、会員 ML に至急周知することとする。

2. 広報（荻谷、欠席のため資料に基づいて報告・審議）

1) 第四紀通信 16 巻 3 号の編集・配布状況の報告 2) ホームページの管理/更新状況を報告 3) 学会及び幹事会メーリングリストの現況を報告 4) 通信 16 巻 4 号の準備状況の報告 5) HP に会長・名誉会員情報を掲載するかについて審議：名誉会員は、現員と逝去会員に分けて記載する。名前と略歴（推薦文のある場合はそこからおこす）を掲載。歴代会長・副会長一覧表を作成する。いずれも吾妻幹事が原案作成し、次回の幹事会で審議することとする。

3. 企画（佐藤）

1) 講習会：荻谷幹事企画案を検討した結果、下記の範囲・内容での開催が望ましいとなり、継続審議となった。関東地方で、野外講習を含める。内容も拡大し地形関係全体に関わるような内容が望ましい。2) シンポジウム：第 2 回シンポジウムは、6 月 27 日に、評議員会と学会賞・学術賞受賞者講演会に引き続いて開催する。テーマは「地球温暖化と環境防災」。会場は、日大文理学部 100 周年記念館国際会議場。

4. 編集（公文）

1) 第四紀研究 48 巻 3 号の編集状況を報告。昨年の東大大会シンポジウムの特集号となる。7 月中旬発行予定。通信 4 号と一緒に送付。2) 48 巻 4 号の編集状況を報告。9 月刊行予定。3) J-STAGE（電子アーカイブ）は、47 巻 4 号まで配信済み。アーカイブ化に関する異議は 1 件のみ。これは非公開とし、7 月末には 46 巻以前も電子化される予定。4) 次期編集委員会の持ち方について議論した。5) 引き続き原稿増を図る方策につき、議論した。

5. 渉外（三浦）

1) 開催中の日本地球惑星科学連合 2009 年大会の報告と、来年度以降プログラム編成が大きく変わることが予想されるため、学会としての関わり方に関する議論を行った。

6. 行事（鈴木）

1) 2009 年大会案内について報告。2) 2010 年以降の大会開催校について議論した。

7. INQUA 執行委員会組織委員会（奥村）

1) この間日本学術会議 INQUA 分科会では、めだつた動きはない。2) INQUA 招致手続きが変更になった。2010 年 5 月 1 日までに立候補届け出、2011 年 5 月 1 日までに完全な招致プロポーザル提出。この準備として、連合大会後 INQUA 国内委員会を開催予定。3) 10 月北京で東アジア第四紀学会が開催される。4) シャックルトン・メダル受賞候補者の推薦依頼あり。35 才くらいまでの若手研究者対象。5) INQUA 広報誌 Quaternary Perspective に第四紀学会の紹介文を執筆予定。

8. 会計（吾妻）

1) 予算執行状況について、資料に基づいて報告。おおむね予算案通り執行されている。学会賞・学術賞受賞者の懇親会招待に伴う費用負担について議論。学会から支出することとする。2) 高額会費滞納者の取り扱いについて議論した。5 年滞納者については、大会時評議員会で報告し除籍処分とする。

9. 幹事長（水野）

1) 推薦期間を延長した学会賞・学術賞受賞候補者の推薦には、複数の推薦があった。選考委員会に付託済み。委員会から依頼があった場合には、被推薦者の業績リスト作りを事務局で準備する予定。2) 論文賞・奨励賞候補者は選考委員会で選考中である。3) 知財関係の会則改訂案の検討：近日中に弁護士と相談するので、次回幹事会で報告し、検討する。4) 6 月 27 日の学会賞・学術賞受賞者講演会当日の役割分担を検討した。

10. その他

1) 学会賞等の表彰状の書式について(庶務幹事): 標記書式について、案を提示しながら検討の依頼があった。基本的には案の通りとし、英文状は作成せず、申請があれば証明書を発行する等の手続きをとることとした。2) 日本学術振興会賞・文部科学大臣表彰の推薦依頼について(庶務幹事): 標記推薦依頼があった。審議の結果、日本学術振興会賞については、横山祐典会員を推薦することとした。また今後は、学会賞等の各種受賞者の中から、賞の規定に合致する受賞者を優先的に推薦することとした。3) 転載許可申請書について(庶務幹事): 最近転載許可申請の事務手続きを十分理解していない申請が増えていることから、議論を行った。その結果、申請書は従来通りとし、記載例をHPに掲載して十分な理解を図ることとした。許可の手続きについては、従来通り幹事会MLを利用した持ち回り審議とする。4) 英文HPの作成について(奥村): 必要性は十分認識できるが、作業は大変。次期幹事会への申し送り事項とする。
・次回幹事会は、6月27日(土)10時~11時30分 日本大学文理学部100周年記念国際会議場2階 会議室2において、評議員会に先立って開催する。

◆猿橋賞募集

女性科学者に明るい未来をの会は、「女性科学者のおかれている状況の暗さの中に、一条の光を投げ、いくらかでも彼女らを励まし、自然科学の発展に貢献できるように支援する(創立の趣旨より)」という願いをこめ、1980年に創立されました。当会は、毎年、自然科学の分野で、顕著な研究業績を取めた女性科学者に、賞(猿橋賞)を贈呈しています。

賞金は、本会を母体として設立された公益信託(1990年3月13日文部省認可)「女性自然科学者研究支援基金」(受託者:UFJ信託銀行)から支出されます。

猿橋賞の推薦

来年は、創立30周年を迎えます。創立の趣旨に思いをいたし、2010年度第30回猿橋賞の募集を開始します。なお、今後、募集要項に変更がある場合はホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページ(下記URL)をご確認下さい。

<募集要領>

1. 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を取めている女性科学者(ただし、下記の推薦締切日で50才未満)に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞金(30万円)を添えます。
3. 本賞の贈呈は、1年1件(1名)です。
4. 推薦書類はホームページからダウンロードし、A4用紙に印刷、記入して下さい。推薦者(個人・団体、自薦も可)・受賞候補者の略歴、推薦対象となる研究題目・推薦理由(800字程度)、及び主な業績リスト(頁の追加は1頁まで可)を記入して、主な論文別刷10編程度(2部ずつ、コピーも可)を添え、7.の送付先までお送り下さい。
5. 締切は2009年11月30日(必着)です。
6. 第30回の贈呈式は、2010年5月、東京において行う予定です。
7. 推薦書類送付先:

〒247-0022 横浜市栄区庄戸 5-14-3

女性科学者に明るい未来をの会

(封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい)

詳細は <http://www.sarunashi.net/> をご覧下さい。

◆日本地球惑星科学連合の今後の代議員選挙に関する日程と会員登録のお願い（日本第四紀学会幹事会）

第四紀通信第 16 巻 2 号においてすでに連絡しましたが、2008 年 12 月 1 日に一般社団法人日本地球惑星科学連合が発足しました (<http://www.jpogu.org/>)。新しい連合には日本第四紀学会も団体会員として登録しています。

新しい日本地球惑星科学連合では、今後、全会員の選挙によって代議員選挙を実施し、下記の 5 つの登録区分（セクション）に登録した会員数に比例配分して代議員を選出します。

1. 宇宙惑星科学：太陽系の諸天体（太陽、惑星、小天体）の起源と進化の解明、現在の状態（内部構造、表層環境、大気・プラズマ環境）とダイナミクスの理解、さらには宇宙空間及び系外惑星の探求を目指す研究分野。
2. 大気海洋・環境科学：現在及び過去の大気・海洋・表層環境とその変動（気象現象から古気候変動まで）のメカニズムを解明し、将来の地球環境の変動の予測に向けて、大気、海洋、陸水、雪氷、土壌、植生とそれらの相互作用の理解を目指す研究分野。
3. 地球人間圏科学：地球表層空間における自然と人間の相互作用とそれに起因する諸問題（自然災害、農村・都市環境、土地・資源・エネルギー利用など）を、調査・観測、データ分析、モデルにより多面的に研究する分野。
4. 固体地球科学：固体地球（地殻、マントル、中心核）の構造と物性、進化と変動の歴史、現在のダイナミクスを、地球物理学的、地質学的、物質科学的、地球化学的な手法を用いて総合的かつ統一的に解明する研究分野。
5. 地球生命科学：生命に関して、その起源と進化、絶滅の原因とプロセス、形態や生態の多様性を環境の進化・変動との関わりという視点に立って、地球惑星科学及び生物学の両側面から理解を目指す研究分野。

選ばれた代議員（社員）の方々は、団体（学協会）会員とともに、定時・臨時社員総会（一般社団法人最高意思決定機関）において、役員を選出、事業計画の承認、その他の連合の運営に関わる諸事項についての決議を行なうこととなります。また、登録区分に概ね対応する各セクションのプレジデントはこの代議員の中から選挙によって選出されます。各プレジデントのもとで構成されるサイエンスボードも、代議員を中心とした会員から選ばれ、それぞれの領域における日本の地球惑星科学の今後の方針を策定する上で大きなリーダーシップを発揮することになります。

今回の選挙で選ばれる代議員の任期は、来年の 4 月から 2 年間となります。代議員の定数は、80 名以上 200 名以内であり、上記の代議員選挙公示日の前日における団体（学協会）会員の数の 2 倍となります。また、各登録区分において選挙で選出する代議員の数は、上記の代議員定数のうち、5 名ずつ（合計 30 名）を各登録区分に配分した後、残りの人数を、選挙公示日における各登録区分における正会員の数によって比例配分した数となります。

正会員登録された方は、どなたでも代議員に立候補できます。方法は自薦あるいは本人の承諾のもとでの他薦で、立候補者は、氏名、所属機関、推薦者氏名（正会員 2 名以上）、立候補する登録区分、立候補者の抱負または推薦文（100 文字以内）をつけ、他薦の場合は推薦承諾書を添えた立候補届けを、立候補受付期間内に、選挙管理委員会に届けることとなります。

投票は、ウェブ上で行ないませんが、上記の代議員選挙の投票締切日までに会員登録をされた個人会員の方は全員、ご自分が選んだ登録区分に立候補された方々のなかから 5 名を選んで投票することができます。

現時点では第四紀学のような学際的な分野に直接対応する登録区分はありませんが、日本第四紀学会幹事会としては、第四紀学の理念を理解し、連合の中でリーダーシップを取れる実績がある会員が、関連する各登録区分の代議員として選出されることを期待しています。そのためにも、日本第四紀学会の会員には、できるだけ日本地球惑星科学連合の個人会員登録を行っていただき、代議員選挙に参加していただきたいと考えています。

代議員選挙に関する日程は下記のようになっています。改めて、皆様の会員登録をお願いいたします。

代議員等の今後の選挙の日程

- 8月 3日：代議員選挙公示
- 8月 17日：代議員選挙・立候補受付
- 9月 17日：代議員選挙・立候補受付締め切り
- 10月 1日：代議員選挙・投票開始
- 10月 30日：代議員選挙・投票締め切り
- 11月 6日：代議員選挙開票・結果報告
- 11月 6日：セクションプレジデント選挙公示
- 11月 9日：セクションプレジデント選挙候補受付開始
- 11月 20日：セクションプレジデント選挙候補受付締切
- 11月 30日：セクションプレジデント選挙投票開始
- 12月 21日：セクションプレジデント選挙投票締め切り
- 12月 25日：セクションプレジデント選挙・開票・結果報告

会員登録は、以下のホームページから行うことができます。

<http://www.jpogu.org/meeting/entry.html>

個人情報登録（変更）の流れは、以下のようになります。

まず、「登録区分」を選択します。登録区分は、「宇宙惑星科学」「大気海洋・環境科学」「地球人間圏科学」「固体地球科学」「地球生命科学」「地球惑星科学総合」の6つあります。これは、「地球惑星科学総合」を除いて「セクション」と概ね対応するものです。ただし、代議員を選出するために、代議員選挙の際の「選挙区」として主たる登録区分を1つだけ選択することになります（選挙権は、各会員に1票のためです）。

そのあとに、連合の学術活動を展開する5つの学術分野の「セクション」を1つまたは複数選択するようになっています。セクションを選択することによって、各セクションからのお知らせ等を受け取ることができます。選択しないセクションにおいても、口頭・ポスター発表を行うことは可能です。なお、「地球惑星科学総合」という登録区分は、横断的な分野という意味ではなく、特定の専門分野を持たない高校教員やマスコミ関係者、一般の方々などを対象とした登録区分を意図したものですので、対応セクションは設置していません。

既に取得されているIDはそのまま新連合に引き継がれています。登録IDをお持ちの方は、下の「個人登録（個人情報登録IDをお持ちの方）」から連合の会員登録を行って下さい。

年会費については、一般が2,000円となります。ただし、連合大会参加者は参加費との合計金額が大会参加費と同額になるように設定されています。したがって、これまでに連合大会に参加されていた方々の実質的な負担はこれまでと変わりません。

大学院生及び定収入の無い研究生の会費は年額1,000円です（所定の手続きが必要です。2009年4月1日から2010年3月31日までの間、大学院生及び研究生である方に適用されます）。学部生及び高校生以下は会費及び連合大会参加登録料が無料です。70歳以上は連合大会参加登録料のみが無料です。

◆松井 健 名誉会員 訃報

1981年から83年に本学会会長を務められた松井 健 名誉会員は2009年6月21日夜、肺炎のために逝去されました。享年84歳でした。先生は第四紀土壌学を確立し発展させ、関連する分野にも大きな業績をあげられ、多くの後進を育ててこられました。まことに残念なことで、心からご冥福をお祈りいたします。

なお、加藤芳朗名誉会員による紙碑を第四紀通信次号に掲載する予定です。

◆ 2009 年度日本第四紀学会 学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞受賞者決定

日本第四紀学会では、学会賞、学術賞、功労賞、論文賞、奨励賞を設け、顕彰を行っております。このうち 2009 年度は学会賞、学術賞、論文賞、奨励賞の選考を行い、受賞者が決定されました。

学会賞は第四紀学の発展に貢献した顕著な業績を有し、また第四紀学会の活動に著しい貢献があった正会員に授与される、学会における最高の賞です。また学術賞は第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与されます。5 月 11 日まで延長して皆様から追加推薦募集を行った両賞の候補者は、日本第四紀学会学会賞受賞者選考委員会（委員長：遠藤邦彦会員、委員：小野 昭、小池裕子、斎藤文紀、中村俊夫各会員）によって最終候補者が推薦され、6 月 27 日に行われた評議員会において下記のとおり、受賞者が決定されました。

日本第四紀学会学会賞：小野 昭会員

受賞件名：「旧石器時代の比較考古学による人類活動と自然環境に関する一連の研究」

日本第四紀学会学会賞：町田 洋会員

受賞件名：「日本列島とその周辺海域におけるテフロクロノロジーを基礎とした一連の研究」

日本第四紀学会学術賞：小疇 尚会員

受賞件名：「山岳地域・極地における氷河・周氷河地形に関する一連の研究」

日本第四紀学会学術賞：斎藤文紀会員

受賞件名：「陸と海の境界域における堆積作用と環境変遷に関する一連の研究」

論文賞及び奨励賞は、会誌「第四紀研究」に掲載された第四紀学の発展や進歩に貢献する優れた論文を公表した会員である著者に授与されるもので、とくに奨励賞は若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的としています。両賞の最終候補者は、日本第四紀学会論文賞受賞者選考委員会（委員長：辻 誠一郎会員、委員：須貝俊彦、竹村恵二、松下まり子、横山祐典各会員）によって推薦され、6 月 27 日に行われた評議員会において下記のとおり、受賞者が決定されました。

日本第四紀学会論文賞：佐瀬 隆会員、町田 洋会員、細野 衛会員

対象論文：

論説 佐瀬 隆・町田 洋・細野 衛（2008）「相模野台地、大磯丘陵、富士山東麓の立川-武蔵野ローム層に記録された植物珪酸体群集変動」47 巻、1 号、1-14 頁

日本第四紀学会奨励賞：立石 良会員

対象論文：

論説 立石 良・沢田順弘・永井淳也・酒井哲弥（2007）「島根県、鮮新-更新統江津層群に挟在するテフラの火山ガラスと鉱物の化学組成」46 巻 1 号、47-61 頁

論説 立石 良・酒井哲弥・山内靖喜（2007）「鮮新-更新世の開析谷埋積堆積物のシーケンス層序：島根県、都野津層の例」46 巻 4 号、327-340 頁

論説 立石 良・沢田順弘（2008）「島根県、鮮新-更新統江津層群テフラ中に産するコランダム、トパーズ、紅柱石、ガーネットの起源」47 巻 5 号、299-311 頁

日本第四紀学会奨励賞：張 穎奇 (Zhang Yingqi) 会員

対象論文：

論説 Yingqi Zhang, Yoshinari Kawamura and Baoquan Cai (2008) Small mammal fauna of Early Pleistocene age from the Xiaochangliang site in the Nihewan Basin, Hebei, northern China. 47 巻 2 号、81-92 頁

論説 Yingqi Zhang and Yoshinari Kawamura (2008) Early Pleistocene soricomorphs and lagomorphs from the Xiaochangliang site in the Nihewan Basin, Hebei, northern China. 47 巻 3 号、159-172 頁

各賞受賞者の表彰式は、8 月 29 日の日本第四紀学会大会総会において行われます。受賞理由等の詳細は、総会において報告されると共に次号の第四紀通信にてお伝えします。また学会賞・学術賞受賞者による講演会を計画中です。

◆第13回尾瀬賞 募集

(1) 概要・賞の内容など

尾瀬をはじめとした湿原は、人類をはじめ多くの生物にとって貴重な自然です。それにもかかわらず、年々人為的な影響により湿原は減少し、また、利用者の増加により植生破壊等が懸念されています。

尾瀬保護財団では、尾瀬に限らずより広く湿原を保護するために、基礎研究に基づいた議論展開が必要であると考え、湿原を対象とした学術的・学際的研究を奨励していくために平成9年度から顕彰事業「尾瀬賞」を実施しています。

賞の内容選考の主たる対象は尾瀬賞です。将来性のある若手研究者には尾瀬奨励賞を授与することがあります。応募者は湿原の保全に関わる基礎研究において優れた業績を上げ、今後の研究の深化が期待される個人またはグループとします。研究対象は、湿った土地に特有の植生と泥炭を有する沼沢、湿原および生態系とします。塩性湿地は含みません。なお、対象とする湿原は尾瀬ヶ原に限りません。

(2) 受賞

尾瀬賞受賞者は本賞2名以内とします。受賞者には1名につき賞状および賞金100万円を贈呈します。尾瀬奨励賞受賞者には1名につき賞状および賞金20万円を贈呈します。

(3) 募集期間

2009年4月1日～10月31日（当日消印有効）

(4) 詳しい問い合わせ先

<http://www.oze-fnd.or.jp/>

財団法人尾瀬保護財団事務局「尾瀬賞」係

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1-1 群馬県庁内

電話：027-220-4431、ファックス：027-220-4421

Eメール：info(at)oze-fnd.or.jp

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya (at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話：044-911-1014 Fax：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

電話：03-5291-6231

FAX：03-52912176